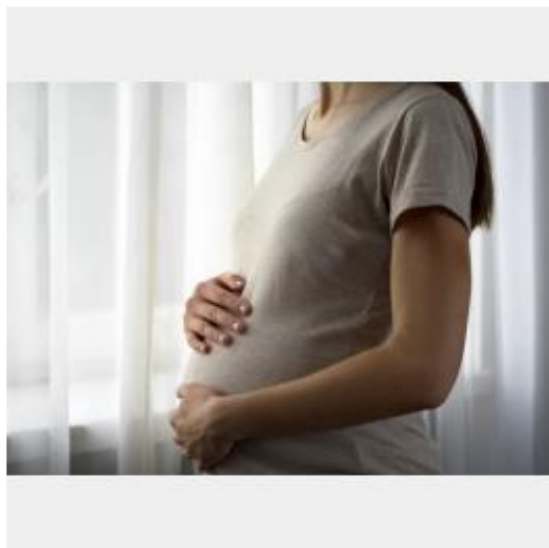


専門家が指摘 「妊産婦コロナ自殺」懸念に2つの対策

公開日：2020/12/20 06:00 更新日：2020/12/20 06:00



写真はイメージ

🔍 拡大する

12月17日、新型コロナウイルスの感染者が全国で3100人を突破し過去最多を記録した。この新型コロナの影響によって自殺が増加傾向にある。20年10月の自殺者数は、2153人と昨年同月比で39.9%と増加。特に女性の自殺が突出しており、82.6%と大幅に増加した。中でも影響が深刻なのが若い女性だ。20代で昨年同月比110%増、40代で129%増と増加傾向にある。原因は、コロナ禍の長期化による家計の収入減少と、それに派生したDV、育児、介護の負担とみられている。

「今後、懸念されるのは、女性の自殺の中でも妊婦の自殺です」と語るのは、妊婦のうつ病に関して調査している岡山大学教授で産婦人科医の中塚幹也氏だ。

「コロナの影響で妊婦のうつ病が増加してきています。6項目の質問で心の健康をチェックすることができるK6というスコアで評価すると、『軽度以上のうつ・不安症』と判断される妊婦は42%と高率でした。このデータは過去の妊婦の調査と比較しても増加している可能性が高く、コロナの影響で自殺者が増加している点と妊婦のうつ病も増加している点から考えると、妊産婦の自殺も増加することが懸念されます」

■ 医療的不安と経済的不安

少し古いデータになるが、国立成育医療研究センターの調査によると、2015年～2016年の妊娠中から産後1年未満の女性で、死亡した357人のうち、102人が自殺していることが判明している。もともと妊産婦死亡の中で、自殺が多くを占めてきた。それがますます加速する恐れがある。

「コロナ禍で妊婦がうつ病になる背景には、大きく2つの要素が考えられました。まずひとつは、コロナに感染するのではないかという医療的不安、そしてもうひとつは、経済的な不安です。医療的不安に関しては、最近になってようやく世界から知見と情報を得られるようになりました。感染拡大当初は妊婦がコロナにかかるかどうか、誰にも分からなかったため、その不安もうつ病を発症させる要因になったと考えられます」（中塚氏）

最近妊婦を不安にさせない対策のひとつとして、東京都や京都府、大阪府など、PCR検査の助成金を提供する自治体が増えているという。

「ただ、経済的不安を抱える妊婦のフォローはまだ充分とはいえません。自治体によっては、妊婦に対し、特別給付金など経済的支援をしているところもありますが、より安心して赤ちゃんを生むことできる社会的な枠組み作りが急務です」（中塚氏）

コロナによる妊婦の自殺を防ぐためにも、正確な情報収集と、早急な経済的支援が必要とされている。

（ジャーナリスト・中西美穂）



【相談窓口】

■日本いのちの電話連盟

- ナビダイヤル 0570・783・556
午前10:00～午後10:00
- フリーダイヤル 0120・783・556
毎日：午後4:00～午後9:00
毎月10日：午前8:00～翌日午前8:00